



造林地内まで光の入る、林業公社林

長崎市(旧琴海町)手崎団地



林業公社だより

- 経営改善推進状況のご報告
- 持続可能な森林経営への取り組み
- 林業公社経営会議
- 木材市況
- 新しい取り組み
- 入札制度の導入について
- 森林・木材豆知識

経営改善推進状況のご報告

「林業公社第6次経営計画」に基づき、役職員一丸となり経営の改善を積極的に推進しているところです。主な改善項目の推進状況は次のとおりです。

分収契約の変更

契約期間及び分収割合の変更について、公社職員が直接ご説明に伺い、皆様にご理解、ご協力いただいたこれまでの実績はつぎのとおりです。未訪問の皆様には、今後も引き続き説明に伺わせていただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

平成19年10月末日現在推進状況

公社別	契約件数 (件)	管理面積 (ha)	分 収 割 合				契約期間
			完了件数	完了面積	件数達成率	面積達成率	完了件数
対馬公社	1,111	7,176	576	3,674	51.8%	51.2%	585
長崎公社	1,485	7,002	723	3,097	48.7%	44.2%	718
両公社	2,596	14,178	1,299	6,771	50.0%	47.8%	1,303

木材販売実績と計画

現在、大手業界では新しい国産材の活用による建築材料の開発、商品化の動きが活発となっており、すぎ・ひのきの需要は高まっております。このような状況の中、平成18年度は長崎公社で1,635m³ 対馬公社で3,471m³を生産・販売し約6,300万円を売上げました。

今後、生産の増加に伴い販売方法も多様化するため、万全な販売戦略の下、皆様の期待に答えられるよう努めて参ります。

伐採計画表	H19	H20	H21	H22
販売量(m ³)	7,000	10,000	11,000	20,000



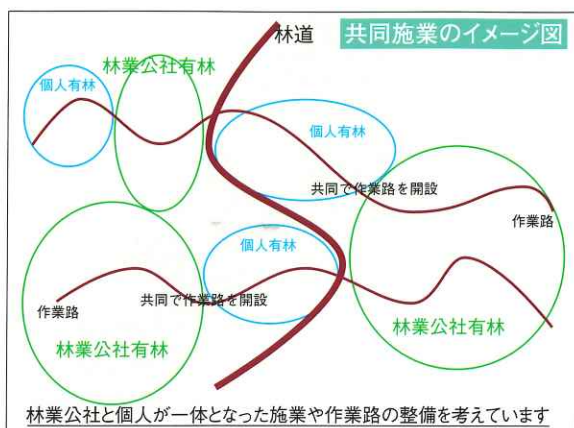
● 間伐材の搬出作業(トレーラーにより木材市場へ)

森林施業実績と計画

平成18年度の実績として、分収林事業では、下刈・間伐等の保育事業599haを実施しました。森林整備地域活動支援交付金制度を活用し、対象森林9,517haについて、森林の現況調査や施業実施区域の明確化、歩道の整備等を実施しました。

平成19年度の計画として、分収林事業では、下刈・間伐等の保育事業769haを実施いたします。素材生産コスト縮減の為、作業路を積極的に開設し、収入増を図ります。また、今年度から5年間の森林施業計画を樹立しており、計画的施業を行うこととしています。

新しい取り組み



公社有林と個人有林の共同施業

木材価格が低迷する現状では、採算性が悪く個人では森林整備が進まない状況にあります。

そこで、地域内の公社有林と隣接する個人有林を取りまとめて共同で作業路の整備をし、計画的・集約的な施業を実施することで、事業の効率化・事業費の削減につなげたいと思います。公社林と共同施業を希望される方はご連絡ください。

持続可能な森林経営への取り組み

森林認証 (SGEC) の取得

林業公社では環境を重視した森づくりのため「長伐期施業」へ転換した森林を対象に「森林認証」を受け、公社有林が有する多面的機能が環境保全へ貢献していくことを広くPRするとともに、環境に配慮した経営の中から生産される木材の提供と、持続可能な森林を目指します。当面は公有林の約1800haについて「緑の循環」森林認証 (SGEC) を取得し、順次個人有林についても対象を広げていく予定です。

認証審査が、審査機関である全国林業改良普及協会により8月22日から3日間、11月5日から5日間に渡り、書類と現地の審査が行われました。



● 公社造林地での現地審査

● もり 森林のニュース

水を育み、地球温暖化を防止するなど、私たちの暮らしを支えている森林の荒廃が進んでいます。そこで県では元気な森林を次の世代に引き継ぐために、森林を社会全体で守り支えていく仕組みづくりの財源として「ながさき森林環境税」が導入されました。その税収は長崎県の森林づくりのためだけに使われます。

主な
事業

- ながさき水源の森整備
- 里山林における竹林整備

- 間伐を促進させる路網整備等
- ながさきの森林づくりを目的とした提案型公募事業

公社では、公募事業として「持続可能な森林経営をめざし森林認証取得に取り組んでおります。

林業公社経営会議

経営安定化に向け、第6次経営計画に基づく、業務推進状況や経営改善の達成状況等について、委員の評価検証を受けました。

平成19年度試行的に実施する請負作業の入札制度の導入については、経営改善の主眼となるよう指導を受けました。

また、販売手法の確立について、専門的な立場から提言をいただきました。

入札制度の導入について

両林業公社分収林事業に関する請負作業の実施にあたり、効率性、入札・契約手続きの透明性、競争性を高めることを目的として入札制度を導入いたします。

入札参加希望者を対象に実務経験取得講習会として、平成19年10月30日にビデオや資料を使った講義を、31日には公社造林地にて伐倒、造材作業の実技講習を開催いたしました。県内外より30名の受講者があり、二日間の受講を終え、修了証が交付されました。



●実務経験取得講習会の様子

木材市況

H16年(8月)~H19年(8月) 月別 丸太価格変動(中径木14~18cm) 長崎・熊本



平成18年度は、台風被害等供給量の不足による一時的な、国産材原木価格の上昇傾向や国産材自給率が20%台を回復するなど、公社にとっては明るい兆しも見えますが、需要構造の変化が激しく木材価格の動向は先行き不透明な状況です。

当面、需要動向を見ながら、生産経費の削減を図り最大の利益を得る販売を実施していきます。

森林・木材豆知識

ひのきは「長崎県木」なのです。ヒノキは、美林と高級材で知られるヒノキ科の常緑針葉高木です。和名は「火の木」の意味で、昔、この木をこすりあわせて火をおこしたことに由来します。“桧”は、脂分があり、昔、“火”を起こす場合、棒を桧板に押しつけながらもんで、木の粉をつくり、その木の粉が“火”を起こすのに適していたので、〈火の木〉(=桧)の名が付けられたといわれています。ヒノキは福島県と新潟県以南、九州の屋久島までの山地に自生の分布をもちますが、重要樹木のために植林が各地で盛んにおこなわれていて、丹精をこめた育成と管理により、うつくしい樹林をつくりだしています。

県内で、もっとも多く植林されている木であり、公社有林の約9割も「ひのき」です。

編集後記

記録的な猛暑が続いた今年の夏、地球温暖化対策は待ったなしの状況となってきました。

内閣府が今年5月実施した「森林と生活に関する世論調査」では、森林に親しみを感じるかと聞いたところ「親しみを感じる」とする者の割合が91.5%と高く、森林に期待する役割では「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」を挙げた者の割合が54.2%と最も高くなっております。このように私たちの暮らしの中で、森林の役割はますます大きくなってまいります。

公社有林もこれから、重要な役割を担うべき時となりました。関係者の皆様と一体となり大切な森林を育てていきましょう。